

- ・留学期間：2 年次 秋学期
- ・所属学科：総合社会学科

留学への思い

高校 3 年生の時に大学をどこにするか迷った時、今一番、私がしたいと思ったことは韓国留学だった。韓国に留学することができる大学は他にも多くあったが、韓国留学だけでなくいろいろな事に挑戦したり、学ぶことができると思ったのは京都文教大学だった。そして、ついに 2 年次生になり留学の準備を少しずつ始めていった。この年、京都文教大学から韓国の湖西大学に交換留学する人は、私一人だけだった。留学すると決めて京都文教大学に来たが、私一人だけが留学をするのはやはり不安がとても大きかった。

たくさんのサポートを得ながら留学開始

8 月 22 日に出発した。不安がすごく大きかったが、これからの自分の成長を見ることができるのではないかと思うと楽しみでもあり、頑張ろうという気持ちになれた。22 日仁川空港に到着し、湖西大学の学生がとても優しく迎え入れてくれた。まだ下手くそな私の韓国語ではあったが、すごく簡単な単語を使って私に会話をしてくれた時は、すごく安心しホッとした。そこから、学校のバスで湖西大学にむかった。私がこれから暮らす寮に到着すると日本人の学生がいた。初対面だったがとてもフレンドリーですぐ仲良くなった。その友達の学校に以前留学していた韓国人のお兄さんが私たちの留学準備を手伝うために来て下さった。日常生活に必要な物が多く各自用意しないといけないので、韓国人のお兄さんが私達日本人留学生を連れて街の方に連れて行ってくださり、日常生活に必要なものを買ったり、みんなでご飯を食べた。留學生活、不安がとても大きかったがこうやって韓国人のお兄さんが手伝ってくれて、日本人留学生とも仲良くなれ、無事に一日目が終わりすごく安心し、これからの生活が楽しみになった。

授業についていくため、予習をがんばる

8 月 26 日から授業が始まるため、時間割を作成しなければならなかった。時間割を作成する時も韓国人の学生が手伝ってくれた。どんな授業が楽しいか、日本人留学生でもわかりやすい授業は何なのか、私たちが勉強になる授業は何なのか、など授業について詳しく教えていただき私の時間割が完成した。私が受講した授業は、「韓国の音楽と文化」・「生活の中の頭脳力の開発」・「韓国語書く」・「韓国語読む 2」・「韓国語聞く」・「文化芸術論」・「韓国民族の理解」である。「韓国語書く」・「韓国語読む 2」・「韓国語聞く」を履修したのは、今まで独学で韓国語を勉強してきたため、発音や韓国語の使い方などおかし

な部分が多くあったため、もっと基礎的なところや発音をしっかり直し、韓国人が話す韓国語に近づきたいと思った。「韓国の音楽と文化」は、韓国の音楽に昔から興味があり、韓国では韓国の学生にどういう風に教えているのかやどんな音楽があるのか知りたくて受講した。「生活の中の頭脳力の開発」は、担当が日本人の先生のため韓国人の先生が話す韓国語よりかは聞きやすいのではないかと思い受講した。「文化芸術論」と「韓国民族の理解」は、興味があったのと先生がとても親切でわかりやすいと知り、受講した。そして、いよいよ授業が開始した。授業を受けてみると分からないことだらけだった。先生の話すスピードも早く、分からない単語が多く、聞き取ることに必死で理解することがすごく難しかった。まだ1日目だが、すごくしんどく、やっていけるのかすごく不安になった。一週間を終え振り返ってみると、すごく早く感じたが、一つ一つの授業が大変でとても疲れ、分からない単語も多く、資料や教科書の内容を理解することが大変難しく、私の韓国語の出来なさを知った一週間になった。それがとても悔しくて、授業の予習を毎日するようにした。次の授業でする部分の分からない単語を調べたり、問題を解いてみたり、分からない単語を調べて書き込み、教科書の内容を理解したりした。元から韓国に興味があったため、勉強することは苦痛ではなかったが、毎日毎日しているうちに少しずつ分かる単語が増え、最初はしんどいと思っていたことがどんどん楽しいと感じるようになったことは、少し成長できた部分ではないかと思った。

寮のルームメイトからも多くを学ぶ

寮に住んでいる人達は平日に点呼があり、22時から23時30分までである。その間は勉強時間のためでもあるため部屋に1時間30分必ずいなくてはならない。その時間にも次の日の予習をし、授業を終わってから休憩し、また予習をする、そんな毎日だった。私たちの部屋は、日本人2人、韓国人2人の4人部屋である。話が通じないことがあり、「どういう意味？」と聞くことが多くあった。しかし、私のルームメイトは、わかりやすい単語で丁寧に教えてくれた。毎日毎日、韓国人のルームメイトと会話することは、とても勉強にもなり、一番、韓国語が上達する方法だと感じた。私の予習の勉強を手伝ってくれたり、発音の練習を一緒にたくさんしたり、時には、日本語を教えたりもした。

「生活の中の頭脳力の開発」の授業では、みんなの前で発表する機会もあった。一人5分の発表だった。日本にいる時でも人の前で話すことがすごく苦手なのに、韓国語で韓国人の前で話すのはものすごく緊張した。「失敗したくない。うまくやりたい」という気持ちが大きかったため、たくさん練習した。韓国人の友達に発音を確認してもらい毎日練習した。緊張して少し失敗した部分もあり、発音もいまいちなところもあったとは思いますが、上手くできたのでよかった。韓国人の前で発表することは人生で一度しかないだろうなと思うとすごくいい経験になったと感じた。

さまざまなイベントに参加

勉強だけでなくいろいろな事を経験することができた。学校の図書館のイベントに韓国人の友達と参加し

た。図書館にあるクイズに答えたり、展示物を見たりと各ブースでスタンプを押してもらい景品をもらうというイベントだった。9月末は、学校ができて41周年イベントがあった。すごく大きなステージがあり、アイドルが来たり、学生がダンスを踊ったり、トークショーがあったりした。学校にはフードトラックがあり、無料で食べ物を提供していた。日本の学校では考えられない大規模なイベントですごく驚いたのが印象的だった。

私は文化企画学科に所属していたので、天安で有名な「ファンタリョン・ダンスフェスティバル」にも参加した。「ファンタリョン・ダンスフェスティバル」は、韓国最高の「踊り」の祭りである。世界の踊り手たちと国内の踊り手が参加する。「ファンタリョン・ダンスフェスティバル」のハイライトでもあるストリートパレードは二日間に分けてある。世界各国のダンサーだけでなく、地域の学生や市民も参加することができ、各自の踊りを大通りでみんなの前で披露する。私達は、ハリーポッターの衣装を着て踊った。激しい踊りではなく、少しクールな感じで、みんなが揃うととても綺麗なダンスである。こんな大通りで踊るのも初めてで、お客さんの数もすごく多くとても緊張した。しかし、いざ踊ってみると楽しく拍手の大きさにとても感動した。普段学校ではお見かけしない文化企画学科の先輩ともお話ができていい交流になり、記憶に残る1日になった。

10月には、学校の学園祭と、文化企画学科の「メンバーシップトレーニング」に参加した。学園祭では韓国で有名な豪華アーティストが来たり、フードトラックが学校内に多くあり、服やアクセサリーも販売するなど、日本では考えられないほど大規模なものだった。文化企画学科のメンバーシップトレーニングは、大学の仲間と一緒に短期合宿のことである。一緒にグループの先輩方からは、日本人留学生に対してとても優しくしていただき、いつも「大丈夫？理解できる？」と声をかけていただいた。それがすごく嬉しくて、私ももっと積極的に話そうと思った。グループに分かれて写真を撮りながらミッションをクリアしたり、韓国の昔の遊びをしたり、韓国の演劇を見たりと、韓国でしか出来ない体験を多くすることができた。11月には、寮生だけのイベントもあった。寮に住んでいる学生が踊ったり、出し物をしたりと、いろいろ楽しいイベントに参加できた。

言葉が通じることの楽しさ

留学中、言葉が上手に伝わらなく、伝えたいことが伝えられなくてすごく悔しい思いもし、自分のできなさにすごくうんざりした時もあった。話している内容も私は違う意味で理解して話が通じてないこともあり、勉強もしたくない、話すのが怖いと思うこともあった。どうすれば上手くなるのか、自然に使うことが出来るのかをたくさん考え、たくさん勉強した。最初の方は、上手くなったと感ずることが全然なく、焦って焦って勉強するうちにしんどくなり韓国語が嫌いにもなりそうになったこともあった。しかし、時間が経つに連れて、少しずつだったが「あっ、この前伝えられなかった事が伝えられてる」と思うことがだんだん多くなり、それがとても嬉しかった。自分の成長が一番感じられた瞬間だった。友達との会話も浅い話ばかりだけでなく、深い話もできるようになり、韓国語を使って話すことが楽しかった。一人ではできないことが多くあり、たくさんの人に助けもらった。頑張っって一緒に韓国語の勉強をした日本人留学生、授業の時間割作成やパソコンの使い方やコピーの仕方などたくさん教えてくれた韓国人の学生、授業で困ったときに優しく丁寧に教えてくれた先生、いつも寮に帰って毎日話して、聞いてくれるルームメイト、多くの人に助けってもらい留学生生活が終わった。

人の温かさに触れた留学

留学生活を終えて、私は大学生活ですごくいい経験が出来たと思う。私は実家暮らしのため母に頼りっぱなしが多かった。留学となると何もかも自分でしなければならず大変だった。毎日毎日、家事をしてくれる母に改めて感謝しなければならないと思った。毎日コツコツ勉強することもとても大切だと思った。そして、何より感じたのは、人の温かさである。わからないことがあって困っていたら助けをくれたり、教室がわからなかった時、口だけで説明するのではなく、教室まで一緒に来てくれたり、授業でも先生が早口で分からなかった時に丁寧に説明してくれたりした。韓国人のルームメートは、「暖かくして外に出てね」や「気をつけて行ってきてね」など、私が出かけるたびに一言かけてくれた。正直、もう半年韓国で勉強したかった。辛いことしんどいこともたくさんあったが、留学して3ヶ月経った時に「韓国語が上達してる」と感じた。ここで終わるのはもったいないとも思ったし、これからもっと上達するんだろうなと思うとあと半年いたかった。しかし、日本にいて今まで通り一生懸命韓国語の勉強をすれば上手くなると思った。韓国語を使うこと、韓国人の方と会話する機会は減ると思うが、韓国語が上達するのは自分の勉強次第だと思う。なので私は日本に帰国してからも韓国語の勉強を頑張っている。韓国語能力試験を受けるためである。ここで終わるのはもったいないので韓国語能力試験6級を目指してこれからも一生懸命勉強していきたい。